



株主のみなさまへ

第47期中間期 営業のご報告

2007年4月1日～2007年9月30日

企業理念	2
決算ハイライト	3
社長メッセージ	4
営業活動のご報告	7
海外でのビジネス展開	8
「フリンジャレンジ2007」開催	10
島精機の原点 「全自動手袋編機」	11
中間連結財務諸表	12
会社概要	14
株式概要	15

Ever Onward — 限りなき前進

当社はこの経営理念のもと、世界にない新技術の開発を目指し、最高機能の製品を経済的な価格で提供する総合メカトロニクス企業として、ユーザー業界にイノベーションを起こし続けています。

当社の歩みは、45年前、若きエンジニアであった現社長・島正博が、「手袋編機の全自動化」という難課題を解決するため、小さな町工場を和歌山市に興したことに始まります。

この世界初への挑戦は、様々な難問を克服しながら3年後に成功。その豊かな発想力と情熱は、その後衣料用編機の分野で未開拓であった機械技術と電子技術の融合へといち早く向かい、数々の新製品を創出しました。

これにより先発の海外メーカーを凌駕し、世界のトップランナーに躍り出た当社は、1995年、「ホールガーメント®(無縫製ニット)横

編機」を発表。ニット業界の産業構造を労働集約型から知識集約型へと転換を促しました。

そして現在、当社はコスト競争力と高機能性を備えた製品群に強固な販売ネットワークを加え、世界のニット・アパレル業界の発展に貢献する企業へと成長しています。

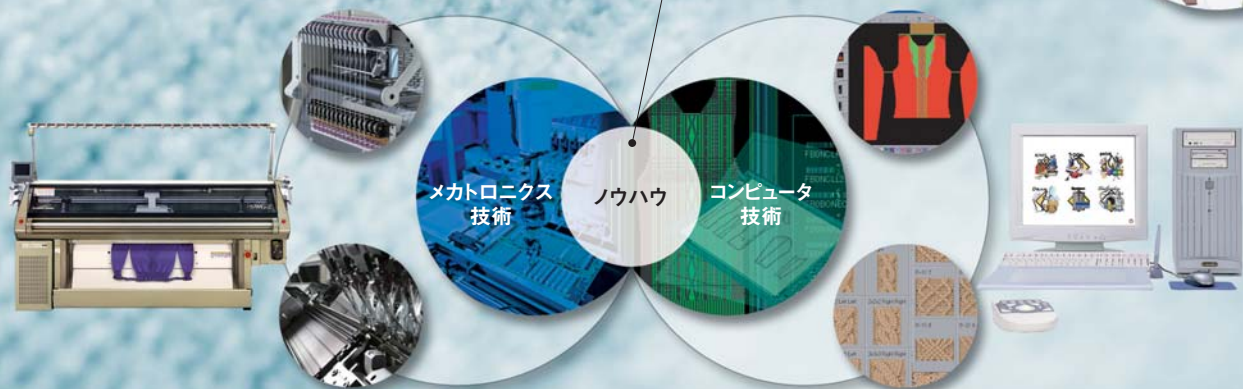
常に顧客の立場でニーズを先取りした技術開発に全力を尽くす——当社は、編機、デザインシステムをコアに、蓄積したノウハウ、デザインを含めた総合的サービスと情報提供によって、衣の文化を創造し、世界中の人々の心を豊かにすることを目指しています。

当社のコア技術と製品

メカトロニクス技術とコンピュータ技術。当社はこの2つの技術をベースにした独創的な製品で、世界のニット産業の発展に貢献してきました。創業の原点である「手袋編機」(P.11 参照)から「コンピュータ横編機」、さらには「ホールガーメント横編機」への開発の歴史は、当社のメカトロニクス技術の進化の証しです。もう1つの強みであるデザインシステムを核としたコンピュータ技術との複合化によって、業界のモノづくりに革命を起こしています。

新たな価値を生み出すノウハウを提供

ハードウェア、ソフトウェアの開発、製造はもとより、製品の性能をユーザーに十二分に引き出していただくために、本社「トータルデザインセンター」で蓄積したノウハウやデザイン情報を、世界の拠点を通じて発信しています。

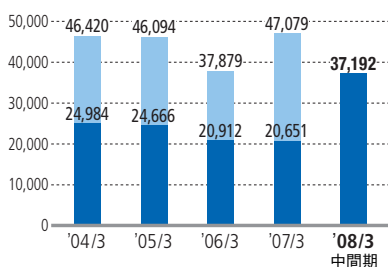


決算ハイライト(連結)

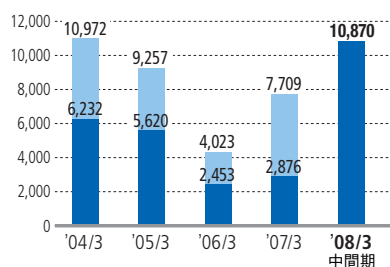
科 目		当中間期 2007年9月期	前中間期 2006年9月期	前 期 2007年3月期	前年同期比
売上高	(百万円)	37,192	20,651	47,079	+ 80.1%
営業利益	(百万円)	10,870	2,876	7,709	+ 278.0%
経常利益	(百万円)	12,298	3,177	9,450	+ 287.0%
中間(当期)純利益	(百万円)	6,664	600	3,113	+ 1,010.6%
1株当たり中間(当期)純利益	(円)	188.35	16.37	86.17	+ 1,050.6%
総資産	(百万円)	141,712	110,744	129,161	+ 28.0%
純資産	(百万円)	104,607	94,718	92,810	+ 10.4%

■ 通期 ■ 中間期

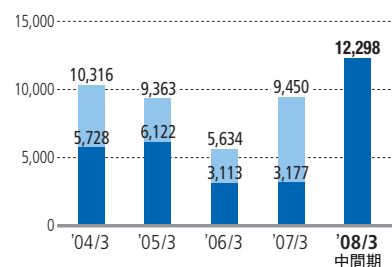
売上高 単位：百万円



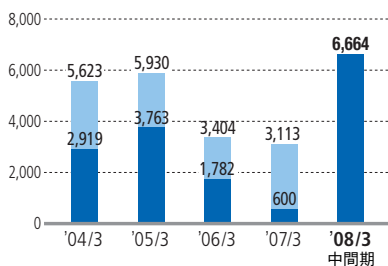
営業利益 単位：百万円



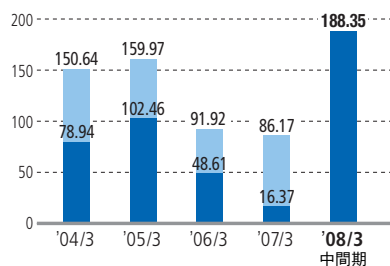
経常利益 単位：百万円



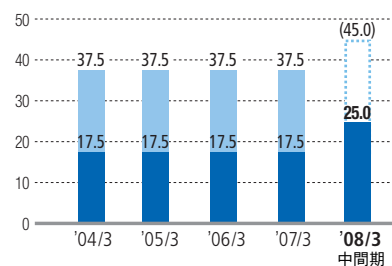
中間(当期)純利益 単位：百万円



1株当たり中間(当期)純利益 単位：円



1株当たり配当金 単位：円



注) 中間期は普通配当22.5円、
創立45周年記念配当2.5円、合計25.0円
期末配当は20円を予定

将来の見通しについて

本報告書に記載されている将来に関する予測については、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて行った予測であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これら予測とは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

第47期中間期業績のご報告と今後の展開

中国、香港市場の需要拡大が続き 過去最高の中間期業績を達成しました。

当社は前期（2007年3月期）、世界の重要市場で戦略的な事業変革を推し進めました。この世界戦略の順調な進展と、中国、香港市場での旺盛な需要継続が相まって、売上、利益とも大幅な躍進となり、7月27日発表の業績の上方修正を上回る結果となりました。この背景と今後の展望についてご報告いたします。



代表取締役社長
島 正博

Q 当中間期の業績の概要について説明してください。

A 中国、香港市場が大幅に伸張したことなどから、過去最高の中間期業績を記録しました。

世界最大のニット製品生産拠点である中国、香港市場は、コスト競争力の高い豊富な労働力を背景とした圧倒的な生産力によって、存在感を高めてきました。

しかし、沿岸部における人件費高騰による労働力不足が発生し、人民元高によるコスト高、国内での内需拡大といった要因によって、前期の下期以降、手動式横編機からコンピュータ横編機への転換需要が活発化し、当中間期も旺盛な設備投資が継続しました。

当社は前期、中国、香港市場に向けて高品質で経済性に優れた新型横編機「SSG®」「SIG®」を投入しました。この市場ニーズに合致した新機種は、当中間期も非常に好調な販売が続き、売上増、利益増に貢献しました。

一方、欧州の主要ニット生産国であるイタリアでも、国内生産体制への回帰気運が高まり、横編機需要が増加して売上は回復しました。



日本市場においても、ニット製品の国内生産への見直しもあって、売上は若干ながら増加に転じました。

さらに、イタリア、米国の現地法人が当社連結対象に加わったこともあり、当中間期の連結売上高は過去最高の371億92百万円（前年同期比80.1%増）となり、海外売上高比率は94.3%と前中間期から3.3ポイント上昇しました。

利益面につきましては、横編機事業における売上高の大幅な増加と、増産等による原価低減が加わり、営業利益は108億70百万円（前年同期比278.0%増）、円安による為替差益が加わった経常利益は122億98百万円（前年同期比287.0%増）と大幅に増加しました。また中間純利益は66億64百万円（前年同期比1,010.6%増）となり、いずれも中間期の業績としては過去最高を記録しました。

Q 海外での販売状況、特に中国の状況を説明してください。

A 中国では内需拡大もあり、堅調な需要が続くと予想。
欧州、日本でも、国内生産回帰による需要増が見込まれます。

中国のニット業界は、これまで欧米、日本への輸出が大きな割合を占めていましたが、ここ数年、富裕層の広がりから国内向け需要も増大しています。国内消費がさらに拡大する中で、輸出とのバランスを図りながら、今後しばらくは持続的に成長し続けるとみています。

当社は昨年7月、香港に販売子会社「島精染業有限公司」（SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.）を設立し、中国全土にわたる総合的な販売戦略を推進しています。

中国、香港市場で安定した成長を遂げるためには、ユーザーへの直接的な技術指導に加え、与信管理や売上債権管理が重要な課題であると考えています。

こうした課題に対し、直販子会社を通じた積極的な取り組みを進めることで、製品力・販売戦略・技術サポートのいずれにおいても他社との差別化を鮮明にし、地元編機メーカーや欧州勢が割

拠する厳しい競争の中での圧倒的なシェア獲得に傾注していく所存です。

欧州、米国における取り組みは、本誌「海外でのビジネス展開」（P.8-9）で詳細をご報告していますが、前期に設立した各拠点を軸に、当中間期、ホールガーマント®横編機の需要を再度喚起するイベントなどを積極的におこないました。

このようにグローバルな事業戦略は活発に稼働し始めており、今後の具体的な成果にご期待いただきたいと思います。

Q 業績好調の中で、中国での模倣機問題や市場一極集中へのリスクを懸念します。対応策は？

A 模倣機問題については、技術的思想に基づくトータルニットイングシステムの提供こそ、根本的な対策であると考えます。

当社の独自技術・ノウハウを模倣した製品が、中国市場で多数流通していることは残念なことです。しかし、こうした模倣機は、その基盤に総合的な技術的思想が存在するわけではなく、単に先行品のコピーをした部品を寄せ集めたものにすぎません。

当社は模倣機問題については、特許権に基づき警告し、場合によっては訴訟を辞さない強い姿勢で対抗しています。しかし真似をされても、さらにその先を進む新製品を開発することが当社の基本的な考え方です。

ハードだけでなく、ソフトやノウハウを含めて一貫通貫でトータルニットイングシステムを提供できることが当社の優位性の源泉であり、

技術力の強化こそ模倣機問題への根本的な対応策と考えています。

市場の一極集中については、ホールゲーム横編機を中心に、日本や欧州、米国など重要市場での展開を強化し、複数の柱で支える体制を築くことは、従来から重要な課題と捉えています。また、原料の豊富な南半球の国々もホールゲーム横編機の市場に加わりつつあり、季節性の強いニット生産の平準化によって安定した業績が期待できます。

Q ホールゲーム横編機の展開について説明してください。

A ヨーロッパの国際展示会で、高効率生産を実現する新機種を展示。これから新たなステージへ突入すると考えています。

2007年9月、ドイツ・ミュンヘンで開催された世界最大の繊維機械展示会「ITMA2007」において、当社は来春にも発売予定のホールゲーム横編機の最新鋭機を出展し、その高生産性と高付加価値化が反響を呼びました（P.8参照）。

特にニット先進地・イタリアのユーザーとの商談を通じて、同国が国内生産回帰という大きな変化の中にあり、付加価値の高いファッション生産が復権しつつある手応えを感じるとともに、ホールゲームへの強い期待も実感した次第です。

この展示会では、ホールゲームのプログラミングを容易にするデザインシステムの最上位機「SDS-ONE® APEX」も披露しましたが、こうした新機種の投入によって、今後、新たなステージに突入すると考えます。

Q 配当について説明してください。

A 中間配当については、業績が好調な推移となったため、普通配当を増配し、記念配当と合わせて25円とさせていただきます。

期初の計画では、中間配当金については普通配当の2円50銭の増配と、併せて創立45周年の記念配当2円50銭を実施し、1株につき5円の増配とさせていただく予定でした。

しかし当中間期の好調な業績を勘案し、普通配当をさらに2円50銭上乘せし、7円50銭の増配とさせていただきます。

これによって、中間配当金は25円、期末配当金は20円とし、年間配当金については45円を予定しております。

Q 通期の業績についてどのような見通しをたてていますか。

A 売上・利益とも大幅に増加し、過去最高となる業績の達成を見込んでいます。

下期においても、中国、香港市場を中心に好調な売上、受注状況が続くと見込まれます。当社では増産体制のもとで活発な受注に対応し、また生産体制の増強も図ってまいります。

通期の業績見通しにつきましては、米国景気の減速懸念や為替動向など先行きに不透明な要素があるものの、7月におこなった業績予想の上方修正の通り、連結売上高650億円、営業利益160億円、経常利益180億円、当期純利益100億円と、売上・利益とも過去最高となる見込みです。

こうした好調な業績の時期ほど、モノづくりの精神を大事にし、万全の品質・生産管理体制で臨む必要があることは肝に銘じております。

株主のみなさまには当社事業の成長にご期待いただくとともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

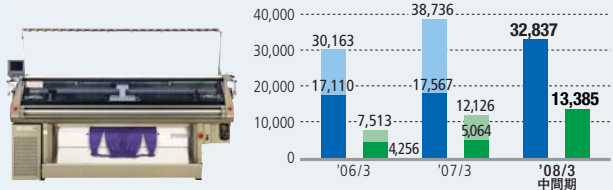
注）業績見通しの前提となる為替レートは、米ドル113円、ユーロ155円を想定。



営業活動のご報告 (連結)

売上高 通期 中間期
営業利益 通期 中間期

横編機事業



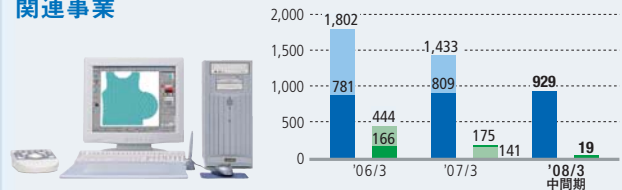
当社のコア・ビジネスである横編機事業では、主力の中国、香港市場において、手動式横編機からコンピュータ横編機への転換需要が引き続き活発に推移しました。昨年7月から投入した「SSG®」「SIG®」シリーズは、当中間期も売上が拡大するとともに非常に強い引合い状況が続きました。6月に開催された「上海テックス2007」でも、コスト低減のみならず製品の品質向上を追求した当社製コンピュータ横編機が、来場者の注目を集め、引合いと受注を増やしました。また韓国やインドなど周辺のアジア諸国においても設備増設が進みました。

欧州市場では中国製品の輸入拡大によって厳しい状況が続いていましたが、高い技術力と製品提案力を活かしたイタリア、東欧での生産体制が見直されたことや、昨年12月に当社グループに加わった「SHIMA - ORSI S.p.A.」（イタリア）を通じて積極的なユーザーフォローを展開したことから、横編機の設備投資の回復が見られました。同地域で開催された「ITMA2007」には、編成時間を大幅に短縮した最新鋭のホールガーマント®横編機をはじめ、当社の誇る最高の技術を結集した製品群を出展し、好評を博しました。

国内市場においてもニット・アパレル業界に中国での生産の集中を見直す動きがあり、本格的な設備投資の拡大には至らないものの、前年同期に比べて若干の売上回復となりました。

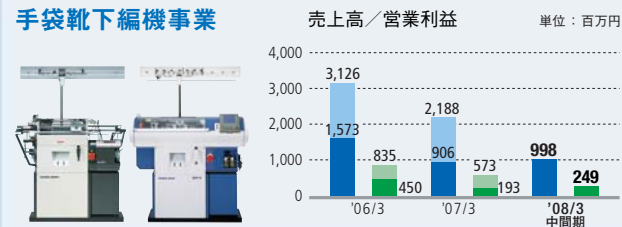
これらの結果、横編機事業全体における売上高は328億37百万円（前年同期比86.9%増）、営業利益は133億85百万円（前年同期比164.3%増）と大幅な増収増益となりました。

デザインシステム 関連事業



デザインシステム関連事業では、ニット・アパレル業界におけるトータルソリューションの核となるツールとして、リードタイム短縮やコストダウンを実現する「SDS-ONE®」の提案販売や、アパレルCADと生地自動裁断機を組み合わせた一貫生産システムの提案販売に傾注しました。売上高は9億29百万円（前年同期比14.8%増）、営業利益は19百万円（前年同期比89.1%減）となりました。

手袋靴下編機事業



手袋靴下編機事業では、主力の韓国市場および国内市場で減少しましたが、アジアの新興国で売上が伸び、売上高は9億98百万円（前年同期比10.1%増）、営業利益は2億49百万円（前年同期比28.9%増）となりました。

その他事業

その他事業は、「NOVA KNITS INC.」（米国）によるニット製品販売事業が加わったことなどにより、売上高は24億27百万円（前年同期比77.4%増）、営業利益は18百万円（前年同期比70.9%減）となりました。



世界の主要マーケットで、 戦略的な販促活動を展開しました

in Europe

世界最大の繊維機械展示会
「ITMA 2007」で、消費地型生産モデルを新たに提案

2007年9月13日から8日間、ドイツ・ミュンヘンで「ITMA 2007」（国際繊維機械見本市）が開催されました。

当社は、ホールガーメント®横編機の新機種、デザインシステムの最上位機をはじめ20台以上の製品と、ニットサンプル約300点を出展。「イノベーション」をテーマとした4年に1度の繊維機械の

オリンピックで、当社はホールガーメントによる高効率で高品位な生産、そしてデザインシステムと連動させ店頭でオーダー可能な新しいビジネスモデルなど、まさに革新的技術を来場者にアピールし、圧倒的な存在感を示しました。

欧州のニット生産は、上昇トレンドに転じつつあります。当社はイタリアに設立した販売子会社を核に、高付加価値製品の投入によって、ビジネス拡大を確かなものとしていく考えです。

ホールガーメント®横編機
「Prototype Machine」(仮称)



60%以上 生産効率アップ

キャリアッジ(駆動部)の高速化、i-DSCS®(自動糸送り装置)などにより、ホールガーメントの編成時間を大幅に短縮。生産効率のアップと高品位なニット生産を両立した革新モデル。

デザインシステム
「SDS-ONE® APEX」



3Dシミュレーション が可能に

デザインシステム「SDS-ONE」の最上位機。3D対応で立体的表現を可能とし、豊富なデータベースをもとにホールガーメントの複雑な編成プログラムを飛躍的に簡便化しました。



欧州で4年に1度開催されるITMA。今回はファッション消費地での生産に対する新たな提案に期待が集まり、11万8千人(149カ国)と過去最高の盛況となりました。



in U.S.A.

社内外のコラボレーションによる提案力強化で
ホールガーメント®の魅力をアピール

当社は2007年7月18日から3日間、米国・ニューヨークで「ホールガーメントコレクション展」を開催しました。昨年開設した「ニューヨークデザインセンター」を中心に、子会社ニットメーカー「NOVA KNITS INC.」、イタリア人デザイナー、そして欧州の糸メーカーのコラボレーションで実現した展示会です。

米国では輸入製品のコストアップから、クイックレスポンスを主眼とした国内生産を検討するアパレルが増加しています。今回の展示会では、「セカンド・スキン」との評価が高い着心地の良さやデザイン性など、ホールガーメントの多くのメリットを米国のデザイナーにアピールすることができました。

当社は米国をホールガーメントの有望市場と捉え、当社拠点との連携を強化しながら需要を創造し、ホールガーメント横編機の拡販につなげてまいります。



ニューヨークのキタノホテルで開催。およそ40社が来場し、新しいデザインへの関心が集まりました。

in China

コンピュータ横編機への移行が加速する中国で
「上海テックス2007」に出展

生産量・輸出货量とも世界最大を誇る中国のニット産業は、沿岸部での労働力不足から人件費が高騰し、コスト削減が課題となっています。そのため、手動式横編機から、生産効率が高いコンピュータ横編機への移行が急速に進んでいます。

こうした市場背景の中、当社は2007年6月1日から4日間、上海で開催された中国最大の繊維機械展「上海テックス2007」に出展しました。今回の展示会で当社は、昨年の発売以来、中国市場での販売が好調なコンピュータ横編機「SSG®」「SIG®」を中心に展示するとともに、中国市場で構築した直販体制によるメンテナンスやサービス強化などのメリットを強くアピールしました。

今後、当社は、中国国内向け需要の増加もにらみながら、市場をリードする製品提案、技術サポートなどを積極的に展開し、厳しい競争の中での一層のシェアアップを目指します。



中国はもとよりアジア、欧米など20カ国以上から約1,400社が出展。熱気あふれる巨大空間には多種多様な繊維機械が展示されました。

frinjarange™
a range of fringe

「フリンジャレンジ 2007」 渋谷109前で開催



FREE to STYLE ニットアイテムの新しい楽しみ方をアピール

フリンジ(ふさ飾り)のついた帽子をベースに三つ編みやビーズで飾る、カットする、結ぶ、髪とからませる……。自由にアレンジして、自分だけのファッションが楽しめる。そんな新しいタイプのニットアイテムとして、島精機がホールガーメント®技術を応用し、ハイティーンを主なターゲットに提案したものが「フリンジャレンジ」です。

5月25日には、若者に強い支持があるファッションビル渋谷109前のイベント広場で、フリンジャレンジの作品を展示し、ファッションショーを開催しました。昼夜4回のショーでは、スタイリストが即興で個性あふれるアレンジを表現。多くの若者の関心を集めたこのイベントが起爆剤となって、この冬は個性的な装いが街にあふれるかもしれません。

ホールガーメントが可能にする新しいニットファッション。島精機は、さまざまな世代の消費者に向けて魅力あるファッションの創造に取り組んでいます。

デザイナーコメント

消費者が自分でアレンジできるファッションを提案

私たちトータルデザインセンターは「世の中にまだない新しいファッションの創造」を目指して活動しています。

今回開発した「フリンジャレンジ」は、形が定まったファッションアイテムではありません。購入した後、自分だけのオリジナルをつくり、楽しんでいただくことができます。消費者のみみなさまの発想次第で、どんどん進化し、私たちも想像できない広がり方をするのは、と期待しているところです。



トータルデザインセンター
チーフデザイナー
木村 裕美子

2007.5.25
**FREE TO
STYLE**
自由なアレンジができて
着こなせるファッションの到来!





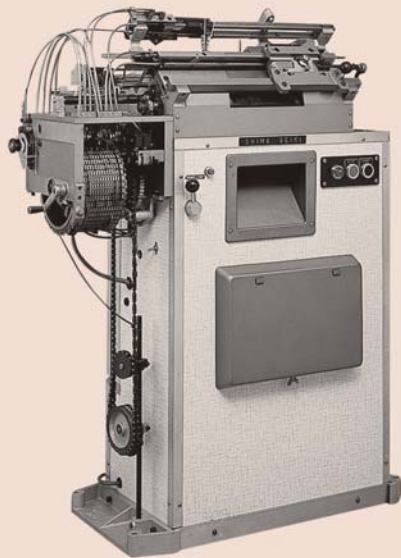
左：創業当時の工場
右：若き日の当社社長

45th Anniversary 島精機の原点「全自動手袋編機」が 物語るスピリット

戦前から作業用手袋として親しまれてきた「軍手」。

日本発祥のこの手袋、今では世界各国で幅広く活躍していますが、昭和30年代までは、5本の指を1本ずつ編んだ指部分と、手のひら部分を人が縫い合わせるという手間のかかる方法で作られていました。製品自体も、指先に縫い目の塊ができるため指の感触が鈍り、また脱げないように手首を締め付ける編み方であったため、回転する加工機械を使う現場などでは、軍手をはめた手が巻き込まれる事故が続出していました。

「全自動で指先を丸く編め、脱ぐことも簡単な安全な手袋がつかれないものか」。こう考えた島正博(現社長)は、1962年(昭和37年)、



手袋製造の難題を解決するために島精機製作所を創業します。

開発に没頭するあまり破産寸前になりながらも、昼夜を分かたぬ改良の末に、指先の形を工夫し、手首にゴム糸を通すといった画期的なアイデアを盛り込んだ編機が完成。業界を揺るがす大ヒット商品となりました。

この世界初の「全自動手袋編機」の登場によって、労働集約型であった手袋の生産形態は一気に合理化され、使用時の事故も大幅に減少。それ以降、世に流通している軍手のほとんどは、島精機の手袋編機で編まれてきました。

開発成功後、次のターゲットとして取り組んだのは横編機。「手袋の親指と小指を両袖に、3本の指を胴体に見立てればセーターになる」。この着想こそ、縫い目のないホールガメント®(無縫製ニット)を生み出した源でした。



発売当時の新聞記事と広告

中間連結財務諸表 (要約)

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	2007年9月30日現在	2006年9月30日現在	2007年3月31日現在
流動資産	93,602	71,772	81,239
現金及び預金	22,967	7,768	15,212
受取手形及び売掛金	44,702	49,431	43,706
その他	28,589	19,918	24,646
貸倒引当金	△ 2,656	△ 5,345	△ 2,325
固定資産	48,110	38,971	47,921
有形固定資産	21,828	19,968	21,500
土地	10,669	10,664	10,668
その他	11,159	9,304	10,831
無形固定資産	10,527	8,686	10,921
のれん	10,368	8,540	10,767
その他	159	145	154
投資その他の資産	15,753	10,317	15,499
投資有価証券	9,067	5,528	9,579
その他	8,181	5,965	7,018
貸倒引当金	△ 1,494	△ 1,176	△ 1,098
1 資産合計	141,712	110,744	129,161

科 目	当中間期	前中間期	前期
	2007年9月30日現在	2006年9月30日現在	2007年3月31日現在
流動負債	26,580	10,495	20,509
支払手形及び買掛金	10,118	4,441	7,481
その他	16,461	6,054	13,028
固定負債	10,524	5,529	15,841
2 新株予約権付社債	4,673	-	10,045
その他	5,851	5,529	5,795
負債合計	37,104	16,025	36,351
株主資本	107,617	98,734	96,301
資本金	14,859	14,859	14,859
資本剰余金	22,233	21,724	21,724
利益剰余金	72,676	64,841	66,713
自己株式	△ 2,152	△ 2,690	△ 6,995
評価・換算差額等	△ 7,348	△ 7,232	△ 6,986
その他有価証券評価差額金	△ 69	197	269
土地再評価差額金	△ 7,518	△ 7,518	△ 7,518
為替換算調整勘定	239	87	262
少数株主持分	4,338	3,216	3,494
純資産合計	104,607	94,718	92,810
負債純資産合計	141,712	110,744	129,161

POINT 1 資産合計

現金及び預金や投資有価証券の増加等により、総資産は前年同期に比べて309億67百万円増加しました。

POINT 2 新株予約権付社債

2006年11月に発行した新株予約権付社債(額面金額総額100億円)の残高は46億73百万円となりました。

POINT 3 中間連結損益計算書

売上高及び各利益はいずれも中間期の業績としては過去最高を記録しました。

POINT 4 売上高

売上高は中国、香港市場における活発な設備投資需要に支えられ、コンピュータ横編機の販売が大幅に拡大し、371億92百万円となりました。

3 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
4 売上高	37,192	20,651	47,079
売上原価	16,836	11,666	25,013
5 売上総利益	20,355	8,985	22,066
販売費及び一般管理費	9,484	6,109	14,357
営業利益	10,870	2,876	7,709
営業外収益	1,559	856	2,039
営業外費用	132	554	297
6 経常利益	12,298	3,177	9,450
特別利益	-	50	1,607
特別損失	215	2,046	4,874
税金等調整前中間(当期)純利益	12,082	1,181	6,182
法人税、住民税及び事業税	4,884	1,650	3,381
法人税等調整額	△ 362	△ 1,047	△ 615
少数株主利益又は損失(△)	896	△ 21	302
中間(当期)純利益	6,664	600	3,113

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
7 営業活動による キャッシュ・フロー	14,252	5,971	10,691
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 6,554	△ 10,661	△ 16,222
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 990	2,858	12,225
現金及び現金同等物に 係る換算差額	37	19	149
現金及び現金同等物の 増加額(△減少額)	6,744	△ 1,810	6,843
現金及び現金同等物の 期首残高	15,954	9,110	9,110
8 現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	22,698	7,299	15,954

中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	14,859	21,724	66,713	△ 6,995	96,301	269	△ 7,518	262	△ 6,986	3,494	92,810
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当			△ 701		△ 701						△ 701
中間純利益			6,664		6,664						6,664
自己株式の取得				△ 14	△ 14						△ 14
自己株式の処分		509		4,858	5,367						5,367
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 339		△ 23	△ 362	844	481
中間連結会計期間中の変動額合計	-	509	5,962	4,843	11,315	△ 339	-	△ 23	△ 362	844	11,797
2007年9月30日残高	14,859	22,233	72,676	△ 2,152	107,617	△ 69	△ 7,518	239	△ 7,348	4,338	104,607

POINT 5 売上総利益

売上高の大幅な増加に加え、増産による売上原価率の改善等により、売上総利益は203億55百万円となりました。

POINT 6 経常利益

経常利益は営業利益を為替差益が加わったこと等により122億98百万円となりました。

POINT 7 営業活動によるキャッシュ・フロー

主に税金等調整前中間純利益の増加により、営業活動による収入は増加しました。

POINT 8 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高

営業活動による収入の増加等により、中間期末における現金及び現金同等物は226億98百万円となりました。

(注) 詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

会社概要

■ 会社概要 (2007年9月30日現在)

商号 株式会社島精機製作所
(英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社 和歌山市坂田85番地
創立 1962年2月4日
資本金 148億5,980万円
従業員 1,083名(連結1,573名)
事業内容 コンピュータ横編機
コンピュータデザインシステム
アパレルCAD/CAMシステム
シームレス手袋編機、靴下編機

■ 事業所 (2007年9月30日現在)

本社 和歌山市坂田85番地
支店 東京支店 (東京都中央区)
大阪支店 (大阪市北区)
名古屋支店 (名古屋市中区)
泉州支店 (大阪府泉大津市)
営業所 山形営業所 (山形県山形市)
福島営業所 (福島県伊達市)
新潟営業所 (新潟県五泉市)
甲府営業所 (山梨県中巨摩郡昭和町)
四国営業所 (香川県東かがわ市)
海外支店 台北支店 (台北市)

■ 役員 (2007年11月1日現在)

地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正博	
専務取締役	田中 雅夫	総務部、内部監査室担当兼経理部長
常務取締役	岩倉 煌一	営業部担当兼経営管理部長
常務取締役	島 三博	知的財産部、 トータルデザインセンター担当兼 グラフィックシステム開発部長
取締役	京谷 実	システム生産技術部担当兼 生産技術部長
取締役	森田 敏明	資材部長
取締役	和田 隆	製造技術部長
取締役	片桐 正二郎	企画部長
取締役	梅田 郁人	物流部担当兼輸出部長兼 島精榮有限公司CEO
取締役	藤田 紀	総務部長
取締役	有北 礼治	制御システム開発部担当兼 メカ口開発部長
常勤監査役	大川 修	
常勤監査役	冲殿 俊幸	
監査役	的場 悠紀	弁護士
監査役	八杉 昌利	税理士

(注) 監査役 的場悠紀、八杉昌利の両氏は、社外監査役であります。

■ 連結子会社 (2007年9月30日現在)

株式会社シマファインプレス (和歌山県和歌山市)
株式会社ニットマック (和歌山県和歌山市)
ティーエスエム工業株式会社 (和歌山県和歌山市)
株式会社海南精密 (和歌山県海南市)
株式会社ツカダシマセイキ (群馬県太田市)
株式会社マーキーズ (和歌山県和歌山市)
SHIMA SEIKI EUROPE LTD. (イギリス)
SHIMA SEIKI U.S.A. INC. (アメリカ)
島精榮有限公司 (香港)
(SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.)
NOVA KNITS INC. (アメリカ)
SHIMA - ORSI S.p.A. (イタリア)

株式概要

株式の状況 (2007年9月30日現在)

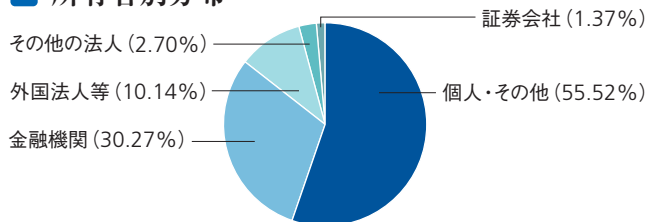
- ① 発行可能株式総数…………… 142,000,000株
- ② 発行済株式の総数…………… 37,600,000株
- ③ 当中間期末株主数…………… 12,868名
- ④ 大株主

(千株未満切捨て)

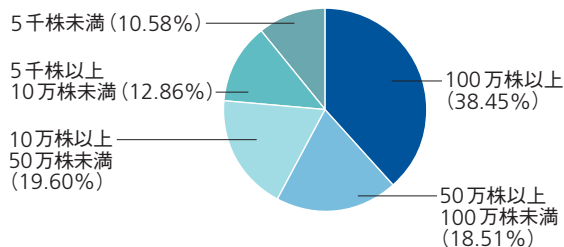
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
島 正 博	5,005	13.59
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	3,288	8.93
島 三 博	1,980	5.38
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	1,933	5.25
株式会社紀陽銀行	1,220	3.31
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,030	2.80
シマセイキ社員持株会	909	2.47
和島興産株式会社	810	2.20
島 節 子	726	1.97
後 藤 ひ ろ み	697	1.89

(注) 当社は、自己株式776千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。
出資比率は、自己株式を控除して算出しております。

所有者別分布

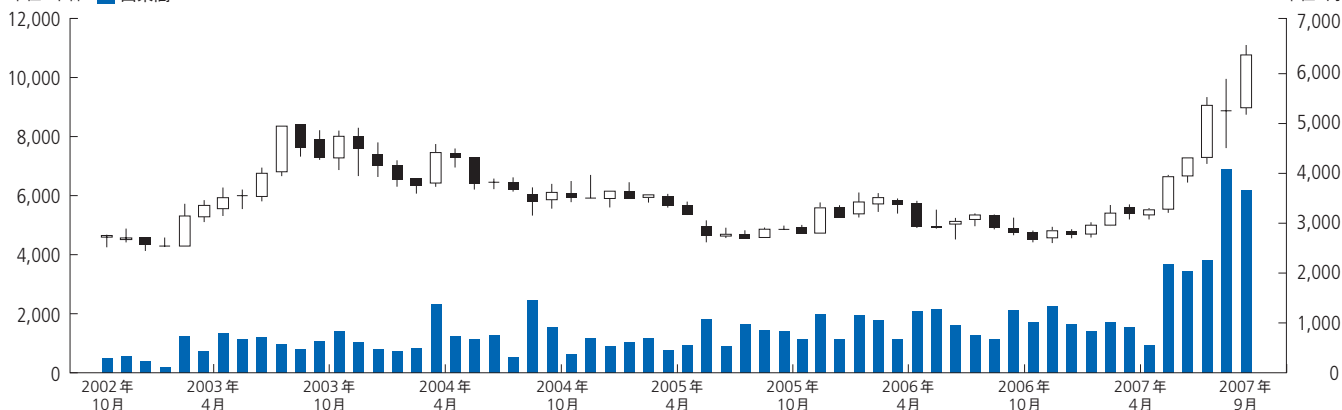


所有数別分布



株価と出来高の推移 (過去5年間)

単位: 千株 ■ 出来高



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 基準日 3月31日
開催日 毎年6月

配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

公告方法 電子公告
下記当社ホームページに掲載
(<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
(お問合せ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部

電話(フリーダイヤル) 0120-094-777

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

- 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地
TEL (073) 471-0511 (代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

SDS-ONE、SSG、SIG、DSCSおよびホールゲームは
株式会社島精機製作所の登録商標です。

株主優待のご紹介

【今9月期のご優待】 宿泊優待割引券

当社では毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しております。今9月期につきましては、当社グループ企業が経営する南紀白浜「ホテル マーキーズ」、「オーベルジュ サウステラス」共通の宿泊優待割引券(正規料金の30%引)を進呈いたします。

発行基準	共通優待割引券
100株以上	4枚
1,000株以上	6枚
3,000株以上	8枚

1枚で2名様までご利用いただけます。



ホテル マーキーズ
<http://www.aikis.or.jp/~marquise/>



オーベルジュ サウステラス
http://www.aikis.or.jp/~marquise/southterrace/kaisou_1.html

お知らせ

「オーベルジュ サウステラス」につきましては、より快適なホテルを目指し、来春からリニューアル工事を予定しております。この改装期間中はご利用いただくことができません。大変ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。工事の開始およびオープンの時期につきましては、改めてご連絡させていただきます。